

山口県教育委員会会議録

日時：平成29年1月19日

場所：山口県教育庁教育委員会室

教 育 長

ただいまより1月の教育委員会会議を開催いたします。
本日の署名委員の指名を行います。中田委員と石本委員、よろしく
お願いします。

それでは、今日は早速、意見交換に入りたいと思います。

本日の意見交換テーマは「子どもの体力向上について」ということ
で、学校安全・体育課から説明をお願いします。

学校安全・体育課長

ただいまより、子どもの体力向上について説明いたします。

本日の説明内容についてです。一つ目は、本県の子どもの体力の状
況について、昨年度までの状況と本年度及び今後の取組について説明
いたします。二つ目は、本県の子どもの運動習慣等について、本年度
の全国調査結果から、運動習慣改善の取組を説明いたします。なお、
12月の教育委員会会議において、今年度調査結果の報告の際に、各
委員の皆様からいただいた御意見も踏まえ、御説明いたします。

それでは、一つ目の本県の子どもの体力の状況について説明しま
す。説明に使用しておりますデータは、文部科学省が平成20年度か
ら実施している「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果で
す。本年度の調査から所管がスポーツ庁に移っております。

まず、体力合計点についてです。体力調査8項目について、それぞ
れ10点満点で得点化し、合計80点満点で集計したものです。小学
校、中学校、あるいは男女によってグラフの位置が違いますが、それ
ぞれ調査対象の得点の基準が異なるためです。それぞれの項目別に年
次的な推移を見ていただければと思います。

平成27年度までの体力の状況については、体力合計点においては、
本調査が始まった平成20年度から、小5女子はほぼ同程度で推移し
ていましたが、小5男子はやや低下傾向にありました。中2男子は平
成24年からやや低下傾向が見られ、中2女子は平成24年度から3
年連続伸びていましたが、平成27年度は、26年度を下回りました。
このように、本県の子どもの体力は、全体としては横ばい状態が
続いているというところでございます。

次にこの図は、各調査項目の全国平均値に対する相対的位置を示す
ため、全国平均値を50としたレーダーチャートで表したものです。
青が全国平均、黒が本県の調査結果になります。体力調査各種目に着
目すると、敏捷性の指標である「反復横とび」や持久力の指標である
「20mシャトルラン」、「持久走」は全国平均値を上回っていますが、
「握力」や「上体起こし」などの全国平均を下回っている種目が

いくつかあります。特に、赤で囲みました長座体前屈については、全国平均値との差が大きく、チャート図も大きくへこみ、体力要素のアンバランスな状態となっております。小5女子、中2男子、中2女子においても、同様な傾向がみられます。

そこで28年度につきましては、体力要素のバランスのとれた運動好きな子どもを育てるために、柔軟性向上を県内全公立小・中学校の共通課題に位置づけ、『子ども元気創造～体力アップチャレンジ～』を、キャッチフレーズとして取組を行うことにしました。

別冊資料の2ページ「2 柔軟性向上への取組」に、これまでの取組の特に「体力アップチャレンジ」の会議、あとはワーキンググループの回答や取組内容をお示しさせていただいておりますので、併せて御覧ください。

柔軟性の向上については、「体力アップチャレンジ協議会」を県教委に設置し、スポーツ医・科学の視点で、子ども達が体育・保健体育の授業の準備運動として、5分間程度で取り組める運動を作成し、全ての小中学校で実践することとしました。また、運動メニュー等の取組状況を検証するため、光市立光井小学校、室積小学校、室積中学校の3校を研究協力校として依頼し、データの収集等をお願いしました。

今年度、全県統一の共通テーマを設定して取組を進めた結果、課題である柔軟性については、小5男子、小5女子、中2女子が、平成20年度調査以降の本県の最高値となり、中2男子も最高値とほぼ同程度となりました。しかし、残念ながら全国平均にはまだ届いていない状態です。

また相乗効果として、体力合計点においても小5女子、中2男子、中2女子では、本県の過去最高値となりました。小5男子については、残念ながら横ばい状態となっております。課題であるアンバランスな体力の状態についても、「長座体前屈」の大きくへこんだ状態が、やや外向きに改善されました。他の調査対象も同様に改善されております。

次に、このように柔軟性の向上がみられた本年度の取組について詳しく説明します。これは先に述べました「体力アップチャレンジ協議会」において作成した柔軟性向上運動メニューです。詳しく説明した資料と映像を全ての小中学校に配付し、実施をお願いしてきたところです。

各校へ配付した映像資料の一部を御覧いただきます。これは股関節の内旋・外旋の運動です。モデルは光市にありますスポーツ医科学センターの職員でございます。股関節を回すことで、可動範囲が広がります。これは股関節の開脚の横の運動を行っているものです。股関節を広げ、同様に可動範囲が広がり、より前傾がしやすくなります。この運動は、ダイナミックストレッチと呼ばれるもので、柔軟性の向上

に加え、体幹の力や筋力等の向上にも効果的な運動です。

次に、柔軟性向上運動メニューの正しい理解と普及を目指して、様々な研修会等で講習会を実施しました。そのときの映像を御覧ください。

(映像再生)

この映像は、研究協力校である、光市立光井小学校の職員と市教研の体育部会の先生方の講習会の様子です。小学校は、体育が得意な先生だけではなく、体育が苦手な先生も指導しなくてはならない難しさがあります。

次に、これは股関節の開脚の縦の運動です。股関節の可動範囲を広げるとともに、体幹が鍛えられ、動きがよくなる効果もあります。バランスをとるのが難しい運動です。

次に、かに歩きの運動を行っているものです。足を横に正しく向けることで、より股関節の可動範囲が広がります。足を180度を開いて歩くのが難しいです。

次にこの映像は、もう一校の研究協力校である、室積小学校の様子です。バレエの練習をしていた児童にも参加していただくということで、先生と児童が一緒に行っています。子ども達の動きと先生方の動きの比較という意味でも、なかなか難しいなというところを見ていただいているんじゃないかなと思います。

今回作成した運動メニューは、主として股関節や骨盤に視点をあてていて、これにより体を動かすうえで動きがよくなるとともに、姿勢もよくなるなどの効果があります。実際に研究協力校における授業での運動メニュー実践状況を御覧いただきます。今度は授業での様子です。

光井小学校での様子です。大股移動の運動をしています。普通に大股で歩けば上下に動いてしまう頭の位置を、一定の高さに保ち移動するのが難しいようです。

次に、今度は室積中学校で、股関節の内旋・外旋の運動を行っているところです。股関節を回すということがわかりにくいようです。部位に手をあてることで、回っていることが、わかりやすくなります。実際にやってみると難しく感じますが、スポーツ科学的にはとても効果的な運動です。

これは、股関節の開脚運動の様子です。胸をはり、リズムよく足を振り上げます。上げた足の下で、手を叩きます。関節や筋肉への刺激はより高くなります。

(映像停止)

こういった形から入って動きを覚えるだけでなく、子ども達が柔軟性を高めることの大切さを認識し、今後の取組が意欲的に、効果的に行われるよう、柔軟性向上の啓発資料として「ポスター」を作成し、全ての小中学校へ配付しました。

別冊資料の3～5ページにもこのポスターの関係資料を載せております。小学校3年生以上の全てのクラスにポスターを配付し、4ページに併せて教員向けに柔軟性向上運動メニューの効果を示す解説資料、5ページには児童へ説明するための読み原稿を添付しました。体育の専門家でない小学校の先生方にも、目的や効果等を理解していただき、そのうえで子ども達にとっても運動の正しい理解の促進と実践につながるよう配慮しました。

また、本県の課題である柔軟性の向上以外にも、全国的な課題でもある、投力・跳躍力向上の参考になる運動例を作成し、研究協力校で先行実施しているところです。今年度末には、体力アップチャレンジ協議会や研究協力校での意見をふまえ、改良した運動例を全ての小中学校に配付する予定です。スライドは投力の運動例です。

今年度の柔軟性向上への取組に対する意見を、研究協力校を含めた各実践校からいただきました。「柔軟性向上運動メニューは、正しく継続的に実施すると効果があった。」といった肯定的な意見や、「実際に小学校で行うと時間がかかり、主運動の時間が短くなる。」、「音楽があるとさらによい」といった改善に向けた御指摘もいただいております。

これらの意見を参考に、体力アップチャレンジ協議会に設置しているワーキンググループ会議において、柔軟性向上運動メニューDVDの改良を、現在行っているところです。改良版DVDとして、28年度末までには各学校へ配付することとしております。

改良点は、まず、子どもになじみのあるドラえものの音楽をつけました。これは、子ども達が運動に楽しく取り組めるようにするためと、音楽を流せば体操ができるようになることを目指したものです。

次に、広いスペースを必要とすることなく、その場でできるものに限定し時間を短く、ドラえものの曲1曲分の4分間でできるメニューを追加しました。これは時間がかかるという現場からの声に応えたものです。

そして、改良版DVDとは別に、音楽と指示アナウンスを収録したCDを添付する予定です。ラジオ体操のような感じで行うことができるような構成とし、各授業での活用が一層容易になるよう工夫しました。その映像を御覧ください。

(映像再生)

DVDは音楽と映像がセットとなっておりますが、実際には映像なしで音楽とナレーションだけが入ったCDを作成し配布する予定です。

(映像停止)

今年度は、柔軟性向上を柱とした体力向上に取り組んできました。長座体前屈については県の過去最高値も記録しましたが、依然として全調査対象で全国平均値を下回っており、来年度も引き続き取組を進

めることとしています。

まず、各学校における柔軟性向上運動メニューの実施率が今年度8月時点で小学校が約85%、中学校で約95%であったものを、平成29年度は100%を目指すことにより、取組の徹底を図ります。

また今年度、小学校の15%において実施されなかった理由は、「運動メニューの実施に時間がかかること」や、「わかりにくいこと」などがありました。これは、改良版DVDにより改善されるものと考えています。

新たに小学校における児童の自主的な参加による体力向上の取組を実施し、これまで校内で競っていた長縄の回数などを、県内の小学生で、各クラスやグループ、あるいは異学年のグループ等を単位としたチームで競い合い、楽しく集団で協力し合いながら取り組むことにより、子どもの運動習慣の改善、体力の向上を図っていきます。詳細につきましては、別冊資料11ページを御参照ください。

12月の教育委員会会議で佐野委員さんより御提案がありました、全国体力・運動能力、運動習慣等調査で例年上位県の福井県、茨城等での先進的な取組も参考にしました。

福井県では、「ザ・チャレンジ」というタイトルで、小学校1年生から6年生、中学校1年生から3年生を対象に、縄跳びで決められた時間内に走った距離を測定する「時間走」や、決められた時間に何回跳べたかを競う「ハイスピード短縄」、3分間に引っかけからずに跳んだ回数を競う「短縄」、3分間で8の字とびで跳べた回数を競う「長縄」といった、縄跳び運動を継続的に行い、記録を県教委に報告し、ホームページに公開することで、児童生徒の意欲の向上を図り、体力向上につなげるようにしています。

茨城県では、「スポーツチャレンジ」と題し、同様の取組を行っています。各校から直接ホームページ上で入力ができ、参加することができます。また、各学校で賞状の印刷等ができるなど、ホームページが充実しています。

本県では、来年度、体育科の教科指導の充実や、陸上・水泳の通信大会運営等に取り組んでいる小体連・小教研とも連携をはかり、様々な運動経験がその後の体力に影響を及ぼす小学生を対象に取組を開始していきます。また、児童が思わず運動したくなるような、運動に親しむための環境整備にも努めていきます。

続いて、二つ目の大きな項目である、本県の子どもの運動習慣の状況について説明します。先月の教育委員会会議でも報告しましたが、運動やスポーツの実施時間についてです。

体育の時間を除いた1週間の総運動時間は、すべての調査対象で全国平均値を上回っています。これは、運動する子どもとしない子どもの二極化の様子を表したグラフです。このグラフは、1週間の総運動時間別の生徒の割合を示したもので、縦軸が生徒の人数の割合、横軸

が運動時間を示しています。また、棒グラフは山口県の割合を折れ線グラフは全国の割合を示しています。全国的な課題となっている、いわゆる運動習慣の二極化につきましては、特に女子において顕著に表れています。運動をほとんど行わない、「1週間の総運動時間が60分未満」の生徒の割合は一番左側になりますが、前年度と比較して男子、女子ともに減少傾向となっています。

このグラフは中田委員さんから御要望のあった本県の「運動している子どもと、していない子どもと体力合計点」の分析です。1週間にほとんど運動していない子どもは体力合計点が低く、運動時間が多くなるほど体力合計点も上がっています。運動を全くしない0分の子どもは、よく運動している14時間以上の子どもと比べ、13点以上低くなっています。女子についても同様のことがいえます。

次に、本県の部活動やスポーツクラブへ所属している子どもと、文化部への所属や全く部活動に所属していない子どもの体力合計点の比較をしてみました。運動部や地域のスポーツクラブへ所属している子どもの方が、体力合計点が文化部に所属している子どもや運動部等に所属していない子どもよりも高くなっています。女子も同様です。

次に、これは石本委員さんから御要望のあった運動をしていない児童への動機づけについて、過去唯一、平成25年度の生徒質問紙調査で調査項目となっていたデータを引っ張って来ました。「今後どのようなことがあれば、今よりもっと運動やスポーツをしてみようと思えますか。」という質問に対する複数回答の状況です。最も多かった回答が、「好きな・できそうな種目であれば」といった『嗜好』に関するもので、その他、「友達と一緒にできたら」といった『仲間』に関するもの、「自由に使える場所があれば」といった『空間』に関するもの、「自由な時間があれば」といった『時間』に関するもの、いわゆる「3間」と言われている項目に対する回答が多く見られました。

このような状況の中、運動習慣改善に向けて、本県では1校1取組の充実を図り、運動の日常化に向けて取り組んでいます。1校1取組の具体的な取組例につきましては、別冊資料10ページに参考資料を載せておりますので御覧ください。

また、日常化に向けて、おもわず活動してみたいくなるようなおもしろい取組について、毎年夏に開催される「体育主任研修会」の中で、大学の先生に講演をいただき、その後、参加者の先生方で情報交換等も行いました。

運動の日常化の例としては次のようなものがあります。握力コーナーや長座体前屈コーナーを設置し、いつでも子ども達が体力測定を行えるようにしたり、掃除の時間もモップではなく雑巾がけをしたりするなど、どの学校でも実施できることがたくさんあります。また、廊下やわたり廊下などに、丸や四角などの浮島をかき、移動時などに、自然とケンケンやジャンプをする場を作っているところもありま

す。

また、天井からボールをつるしたり、挑戦したくなったりする記録を示すなど、子どもが思わずしてみたくなる環境づくりも大切です。その他にも校内にマラソンコースを設定したり、丸太を立てたスペースを設置したりするなどの取組も行われております。

これまで、本県の子どもの体力の状況と運動習慣等について説明させていただきました。本日の意見交換会のテーマとしましては、「体力を高める上で今の子ども達に必要なもの」、「小学生における運動の日常化のために必要な取組」の二つをあげさせていただきました。本県のこれまでの取組や、日頃御家庭や地域で感じておられること、子ども達の体力や運動・遊びの様々な様子を御覧いただいたうえで、忌憚のない御意見をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

教 育 長

ただ今、学校安全・体育課から内容について、前回の委員の皆さんからの御意見、御質問に答えるなどの意味も含めて説明がありました。

最後にお話がありましたけれども、「子ども達の体力を高める上で必要なもの」とか、あるいは、特に小学校に関して言われておりますけれども、「小学校における運動の日常化のために必要な取組」ということでテーマを決めておりますので、二つのテーマをバラバラに分けてということじゃなくても、委員の皆さんが思われたことを、どの順番でも結構ですから、自由に御発言いただけたらと思っております。どなたからでも結構です。いかがでしょうか。

石 本 委 員

一番の「体力を高める上で今の子ども達に必要なもの」というのは、私はやはり苦手なお子さんへの啓発だと思いました。得意なお子さん、好きなおさんはもう黙っていてもすると思うのですけれども、苦手なお子さんとかはやっぱり自分からというのが難しいと思います。

日常化の例というのを私の子にも見せてみたのですが、私の子は割と運動するのは好きなのですが、見たらやりたくなる、的があつたら当てたくなる、握力計があつたら触りたくなるということは言っていました。でも、これは運動が好きなお子さんに限られるところも少しあるかなと思います。消極的なお子さんとか、大人しいお子さんが自分から進んで、的当てゲームをして遊ぶというのはちょっと想像しにくいところもあります。

マラソンなどでは学校でもされていますが、一周走ったらシールを貼ったり、色を塗ったりして先生に提出するとか、そういうマラソンと同じようなかたちで、的当てのゲーム、高跳びのところ、綱を登るところ、そういう所も同じようなかたちで、皆のノルマといいますか

	<p>「毎日の取組」として、先生も関与しながら進めていくというかたちにするのもいいのかなとは思いました。</p> <p>あとは、DVDを作っていたらいいと思いますが、改良されていて音楽も付いていいかと思いましたが、やっぱり継続するのが大切だと思いました。それはどのような頻度で組み込まれているのか。ただ体育の授業があるちょっと前にするのか、体育の授業が週に3回とか4回とかかかもしれませんが、それだけで柔軟性が伸びるのかというところと、もしできるのであれば、昼休みの4分間にDVDを流すとか、決めてするような取組のほうが、柔軟性の向上には効果的かと思えます。</p> <p>それから改良版のDVDを今初めて見たのですけれども、ちょっと動きが音楽と合っていないくて、やっている方も元気がなくて、笑顔がないので、一緒にやろうという気持ちにお子さんになるのかと私は思ってしまいました。NHKの朝のラジオ体操とかも、キビキビした動きで、笑顔でされているんですね。それに、楽しそうな映像とかゆるキャラとか使ってもお子さんにはいいと思います。お子さんが「一緒にやりたい」というDVDにしないと、せっかく改良したのが効果的にお子さんに伝わらないのではないかなと今の映像を観て思ったので、ちょっと意見として言わせていただきました。</p>
教 育 長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>先ほどの週に何回というのは、数字がありますか。</p>
学校安全・体育課長	<p>基本的には授業の時間ということで、全ての小中学校の先生にお願いしていきたいと思っています。ただ、学校の取組の中で、今、御意見をいただきましたように、一校一取組も日頃からいただいているのですが、その一環として、昼休みに給食を食べ終わった頃の時間を見計らって、この音楽を流していただくといったことも提案していきたいと思っています。</p>
教 育 長	<p>他にございましたら。はい、どうぞ。</p>
佐 野 委 員	<p>今の笑顔のDVDというお話については、私もそう思います。もう少しリズム感とかダンスの要素とか、そういうものを取り入れていかれたらいいのではないかと思います。</p> <p>子ども達は見て「すごい」とか「面白い」とか「かっこいい」とか、そういう感情に訴えるものがあると真似をしてみようかなと思うようになると思いますので、担当の職員の方が踊ってもいいのですが、相手が見たときに「これは真似したいな」というような内容にしていただけるといいかなと思います。</p> <p>それから、ゆるキャラということもありましたけれども、他にも山</p>

口県はトップアスリートの方がいらっしゃいますので、そういう方とか芸能人とか、あと地元のアスリートの方もいらっしゃいますので、そういった方がやると、普通の人から見ると「そんなことできるの」と思うような動きがあると、子ども達も「すごいな。真似してみたいな」という感じが出てくるのではないかと思います。

それとVTRとかで指導をされている先生方というのは、運動の大切さはもうわかっていると思うので、そういう『運動が何かに役に立つ』ということはよくわかっていると思うのですが、子ども達は多分そこまでわかってないのではないかなと。だから、動きを見ると、素人目に見るとちょっとかっこ悪いというか、ぎこちないような動きが多いと思います。その部分を鍛えるという意味もあるのですが、なぜそういうことをやっているのかがわかっている人は一生懸命できると思いますが、わかってないと「なんか変なことをやらされているな」と思ってしまうので、その辺を少し子ども達にも知ってもらおうとか、家庭とかでそういう情報を共有するという必要もあるのかなと思います。

私は子ども時代の遊びとか運動で得られた経験や感覚は、すごく大切だと思いますが、最近の子どもはなかなか身の回りに自然がなかったり、体を動かす場や機会が少なくなっているんで、僕らが小さい頃はちょっと怖かったり、危険かなと思うこともあったのですが、そういった時の体の動きが、今でもずっと出たりして役に立っているんじゃないかなと思います。

なぜこれが必要なのかという、柔軟性もそうなのですが、そこら辺をもう少し何かわかりやすい言葉で教えてあげることにはできないかなと思います。5ページに子ども向けの説明文があるのですが、これをしっかり読んでもらえるかなという感じがしますし、もうちょっとストレートに「これをやったらいいよ」というようなものがあればいいのかなと感じました。以上です。

教 育 長

いろいろとアイデアいただきました。また、特に子ども向けの、なぜこれが必要なのかということが、スッと理解できるような、そういうふうに、また検討させていただきたいと思います。

はい、他にいかがでしょうか。

小 崎 委 員

私もDVDの関係の続きですが、例えば、使用前と使用后ではないですが、初めはこんなに体が硬かった人が、これをやったことでここまで曲がりましたとか、そういうのをVTRの最初と最後につけたらなんとなくわかりやすいかなと思いました。

今、流行っている足広げてパッとくっつける体操があるのですが、あそこまでくっつくようになるというのを実際に見ると、本当にやる気が出るのではと思いました。あとはゆるキャラとか、子どもが興味

を持つものはすごく大切なので、まず見てもらうのが大事なので、そういうところはちよるるのようなキャラクター達を登場させて、楽しいDVDになればいいなと思います。学校だけではありません、家庭とかでもできるようになったらいいので、家庭でもそれが見られるような仕組みがあればいいなと思います。ケーブルテレビに出させてもらうとか、私も見ている「なんかやりたいな」と思ったので、保護者も対象でもいいかなと思いました。

あとは、私も小学生の子がいますが、どちらかというと運動は苦手な方で、体操とかの運動が苦手なので、持久走は大嫌いなんですよ。だから、持久走ではなくウォーキング、ただ歩くだけでもいいと思うので、ウォーキングの仕方とかも取り組めるような、何か一例としてあればいいかなと思います。

最近、聞いたのですが、萩で萩弁のラジオ体操というものがあるらしくて、私は聞いたことはないのですが。ラジオ体操もただ普通のラジオ体操ではなく、例えば、山口弁のラジオ体操を作ってみるとか、そうしたら子ども達も楽しく、興味を持ってきて、ラジオ体操が面白いからしようというふうになると。そういう基本的なことが体を作るのに大切なものだと思うので、そういったところに興味を持ってもらえるような取組をしていただきたいなと思います。

教 育 長

ありがとうございます。使用前、使用后という話がありましたが、確かにテレビCMでも「やせる」ということで、使用前、使用后がわかるものがあります。先ほど、「なぜこれをやらなければいけないのか」というお話がありましたが、あの辺りに繋がる場所があるかもしれません。はい、いかがでしょうか。

宮 部 委 員

昨年度の結果に課題があるということで、今年度いろいろと取り組まれて、間違いなく伸びたということで、これからそれをまた研究されて29年度はもっと良い形にしようということで、これは本当に評価したいと思います。

先ほどの中学生の記録がありましたが、運動する子は、小学生の場合はスポーツ少年団とかいろんな活動がありまして、2割か3割の子どもはもう何もしなくても走ったり投げたりできるので、問題は他の子ども達をどうするかということです。これも柔軟性ということで、学校でやるしかないのかなということと、体育もそうですが、今、議論がされていますが休み時間、あるいは昼休みの間にすることは進めた方がいいんじゃないかと思います。

現実として、私の周辺の学校では校庭に芝生を植えたのですが、その結果、外遊びの子がものすごく増えました。先ほど「環境」ということがありましたが、何か環境を変えると子ども達はわずかな休み時間でも外に出ていくし、遊びもいろいろ工夫していますが、それぞれ

の中で「運動を間違いなくしている」という習慣ができつつあります。そういった流れの中で、やはり常日頃から運動習慣をつける方法はいろいろあるのですが、雰囲気作りといいますか、それを作っていかなければと思っております。

それと本当に運動の嫌いな子をどうするかということです。これも他県の例にありますとおり、長縄跳びをやったり、それぞれ道具を置いてチャレンジさせたりということがありますが、それを何かポイント制のような形にして、例えば、走るのであれば、「今日何周走ったからここよ」として、「じゃあ、日本一周したらどんな絵でどんなになるな」と積み重ねが重要で、毎日とか一週間に「どのくらいの時間数運動する」とかではなく、累積したらどうなるかということで、子どもが将来の夢といいますか、広がりを持たせた方がやりやすいといいますか、のめり込みやすいのではないかと思っております。

それに関連して、体力テスト項目に限ってチャレンジさせるような何らかの方法、傾向と対策ということで、そのテストに対してやるのではないのですが、それをやることによって運動習慣というものができるわけなので、そういうところも何か考えられたらいいのではないかと思います。

それと私自身のことなのですが、身体が非常に硬くて、小学校の時から硬くて、未だに硬いです。でも、スポーツは随分楽しんでおりますが、やはり怪我が多いとかいろいろと問題あって、体は柔らかい方がいいです。これも先程のDVDのような、私も体が硬いからYouTubeをよく観るのですが、なにかコツがありますよね。前屈にしてもコツを上手く、私も運動神経が鈍いから、そのポイントになかなか行かないので、そのコツを学校の先生方に専門の先生が教える。やはり、コツを教えて一挙にできるようになると、本人の自信に繋がるし、本当の生活習慣になると思います。いろいろな本も出ていますし、何らかのポイントがあるんですね、例えば、前屈にしても、一生懸命やっても背中を曲げていたらできないと、先ほどのDVDにもありましたが、腿とお腹を付けた状態をやれば上手くなるという方法もありますし、それぞれの項目にあると思います。

ボール投げも今頃はプロ野球の選手が女性の先生方に講習会をやるとか、「肩を入れないと投げられないよ」と。ちょっとしたことですが、何らかの講習会を先生方にすれば、子ども達もそれに倣って、入っていきやすいのではないかなと思っております。最終的には運動能力の高い方は怪我もしませんし、健康にも繋がりますので、ぜひとも小学校での取組を進めていただきたいと思います。以上です。

教 育 長

今の発言について、ポイントやコツを先生方に教えるということについて、何か取組がありますか。

<p>学校安全・体育課長</p>	<p>これは1学期に実施していますが、体育の授業を中心に「実技講習会」を校種別に行っております。その講習会の講師は、文部科学省が開催する全国講習会を受講された先生方が「プレ講習」という形で講習会の講師をやっていただいております。</p> <p>ただ、当然その中には、御意見をいただきましたように、子ども達は『できる』、『嬉しい』、じゃあ『また更にやろう』というふうになっていきますので、そのできるコツという所を、今、実験的には全国の講習会で学んできたことを広めているところです。</p> <p>ただ、広めていくその先に、県内の講習会で受講された先生方がまた市町の研修会、あるいは校内の研修会でしっかり復命ができればいいのですが、現場の全ての先生方まで、どこまで届いているのかというのは、確かに不安なところはあります。今までの仕組みの中で実技講習会というものがありますので、改めて、今いただいた御意見、さらに、子ども達の立場から見てより「やってみたい、継続して続けてやっていきたい」というようなアイデアや取組も紹介していきたいと思っております。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。</p>
<p>中 田 委 員</p>	<p>先ほどの説明で資料の14ページ、15ページに、前回の教育委員会会議の中で「運動している子どもとそうでない子どもで、どれくらい成果が違うか」という質問に対して、資料を準備していただきありがとうございます。</p> <p>これを見てよくわかりました。運動している子どもの方が当然、体力合計点など相当大きな差があるということですね。大体皆さんがもう言われているので、そんなに新しいことはないのですが、小中高と学校に行っている段階では、運動会があつて「誰もが参加しないといけない」ということで義務になっている部分と、クラブ活動等や地域の活動等で「参加は自由ですよ」ということで、それに参加している子どもと参加していない子どもがいるということです。当然、参加している子どもは元々、あるいは親が、運動が好きだとか、友達がその運動が好きで、その子に誘われて行くとかいろんな動機があつても、やっている子ども、頑張っている子は定期的に運動するので能力や体力が付くに決まっていますよね。</p> <p>ですから、この人達は先ほどから、他の方も言われていましたが、放っておいても運動の楽しさというものも知っているので特別なことはしなくてもいいんじゃないかと思えます。この人達にするとすれば、先ほども意見が出ていましたが、もうちょっと高いレベルの指導者と、オリンピックであるとか元プロであるとか、アマチュアでも非常にレベルの高いところで競技をされていた人達を呼んで来て、そういう人達に指導していただければそれはもっと高いレベルを目指す子</p>

どもが出てくるかもしれないですね。だけど、そこまでのことは学校の教育としては、それほど中心に置かなくてもいいかなと。どちらかというと、あまり運動が得意でなく、特に言われないとやらないという子ども達、この辺りのレベルアップと言いますか、少しでもやって「楽しい」という気持ちを持っていただくと同時に、体力も向上して、健康的に長生きができるという状況を作っていくことが必要だと思います。

そのためには、子どもが小さいうちから運動を、それは特別なものじゃなくても、親が休みの時に子どもを連れだして近所を歩くとか、公園を散歩するというレベルでも構わないのですが、「運動をして汗を流すのは楽しいこと」というのを親が教えるのが小さい子どもにとっては一番身近な形となるので、親と一緒に運動をするというのが一番いいのではないかなと思います。親との会話も、一緒に運動をして過ごすことでできるということもありますので、できれば小学校ぐらいのうちは、親の好きなスポーツでも構いませんから一緒にやればいいんじゃないかなと思いました。

運動の得意でない子どもというのは、これは放っておくと積極的に運動に関わることがないので、この部分に対しては少し、例えば、学校の運動クラブとか地域のということになると、これはある程度好きな人達が、毎日相応の時間をかけて、長い期間をかけて訓練している人達がやっていることが多いですから、そこへ入っていくのはなかなか難しいですね。

野球など一度もやったことがない人が中学校、高校で野球部に入って「やってみないか」と言われても、これは普通には入れないですよ。だから、そういう「頂点を目指す」レベルではなくて、今まであまり運動やってこなかったという人達を対象にいくつかのメニューを提供すると。それは学校では難しいでしょうから、地域であるとか、コミュニティ・スクールで、昔、競技をしていたという人達を少し選んで、その人達に簡単でいいから、週に一回とか指導していただくような仕組みをまずは用意するのがいいのではないかなと思います。

それとよく言われているのが、なかなか最近は自由に使える施設がないということです。昔、私が子どもの頃だったら、どこでもキャッチボールをしている人とかがいても、特に文句も出なかった。たまに、人の家の窓ガラスを割ったこともあります。その時は怒られても、それが大きな問題になって「今後そこで運動しちゃいかん」とかそんなことはなかったのですが、今はとにかく公的なところでそんなことやろうとすると、「危ない」とか「やったら困る」とかいろいろと出てきます。

だから、継続的に運動してない人が「ちょっとやろうかな」と思った時に、やれる場所が少なくなっていると思います。それをもうちょっと使いやすい形にできないかと。これは通っている学校でもい

	<p>いですし、維新公園であるとか運動公園がありますよね。そういう所を予約して、料金を払えばもちろん使えるのですが、10分から30分ぐらい使うのにそこまでの手続をしないと使えないのかというような感じですよ。もちろんテニスコートやバスケットコートであるとか、そういう所は簡単には使えないと思いますが、広いグラウンドを、ここは自由に皆さんが使っていていいですよと、というようなところを少し用意したらいいんじゃないかなと感じます。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ありがとうございます。いろいろと具体的な提案がありましたが、教育委員会がすぐ対応できるものもありますし、できないものもあると思います。また参考にさせていただきたいと思います。</p> <p>他にございませんか。はい、どうぞ。</p>
<p>佐 野 委 員</p>	<p>コミュニティ・スクールの活用を少しやったらいいんじゃないかなと思うところがあります。6ページの平成28年度の体力合計点の推移、中学校2年生の男子、ちょっと成績が振るわなかったみたいですが、小学校5年、4年前の平成25年が、今年の平成28年度中学校2年生の成績じゃないかと思いますが、小学校5年のときはちょっと下り坂のような形だったのが、中学2年のところで少し上がっています。ということは、4年前小学校5年生だった子ども達が、中学に入ってから運動をすることということが少し改善されて、成績が上がってきたのではないかなと思いますが、子ども達はどんどん成長しますので、次はもう卒業ですから、そうなった時にコミュニティ・スクールとかそういったところで、成長した子ども達が小さい子ども達に教えるという、ちょっと運動が好きになった子どもが教えてあげるといいう、「教えのループ」のようなものが何かできれば、こういった少し成果が上がってきたものを、うまく向上させることに繋げることができないかなという感じがしました。</p> <p>それと、先進的な取組を調査していただいてありがとうございます。この中で、あまり競争心を煽り立てるといいうのはいいところだけではないかもしれませんが、少しだけ競争心を煽ってあげるとか、褒めてあげるといいうのは効果があるのかなと思います。両県の内容を見ると、国の体力テスト以外に、独自の体力テストで自分達でもどれくらい効果があがったかを確認しているようなところがあったように思います。</p> <p>そういった、何か少しフォローしてあげるといいのかなと思います。学校のホームページとかをいろいろ見ると、本当に皆さんいろいろな取組をされて頑張っておられます。だから、そういったものを何か、県として表彰するとか、頑張ったことが形として認めてもらえる、成績が伸びたということを見える形にするというのも、やる気を出させることに繋がるのではないかなと感じました。以上です。</p>

教 育 長	<p>ありがとうございます。やっぱり成果が見える形にすると、確かに子ども達のやる気に繋がるのだらうと本当に思います。おっしゃったように、競争をあまり煽るのもいろいろあるのですが、やる気にさせるというのも一つの材料ではあるかと思います。また参考にさせていただきたいと思います。他によろしいでしょうか。</p>
宮 部 委 員	<p>先ほど中田委員さんがおっしゃいましたが、運動をする場所ですよ。公園はお年寄りも子どもも使いますが、子ども達がサッカーや野球をするからということで、堂々と『この公園はサッカー・野球禁止』って書いてありますよね。例えば、柔らかいボールを持ってキャッチボールするのは野球なのか、柔らかいボールを蹴るのがサッカーになるのかよく分からないのですが、その辺は直接管轄ではないでしょうが何かの機会にお願いをしてはとは思いますが、そこでは子ども達が遊べることがなくなるということなんですね。</p> <p>もう一つの例は、公園によっては「野球、ソフトボール、サッカーをしてもいい」とか「ここはダメ」とかのすみ分けをします。公園にお年寄りが存在するのは間違いないので、いくら柔らかいボールであっても怪我の可能性があるので、場所の問題については使い方のすみ分けをしますとか、管轄は都市計画課かもしれませんが、何か提案する機会がありましたらお願いしたいと思います。</p> <p>小学校や中学校でも、部活やスポーツ少年団などで使ったりして、普通の子どもは、実は放課後に遊ぶ空間がないんですよ。休みもそういった所を使っていますから。だから、その辺もちょっと問題があるんじゃないかなと思っております、以上です。</p>
教 育 長	<p>課長さん、今の御意見についてはいかがでしょうか。</p>
学校安全・体育課長	<p>今、御意見がありました。公園等の所管がそれぞれ教育委員会とは違うところにもありますので、情報提供なりこちらからのお願いなり、市町教育委員会であれば市長部局等にあると思いますので、連携をしながら進めてまいりたいと思います。</p> <p>学校の放課後の様子についても、今、お話がありました。小学校は施設開放で社会体育、特にスポーツ少年団とか盛んに行われています。我々も小学生の時には、家に帰る前に学校で遊んで、家に帰ってランドセル置いて、また皆で外に遊びに行くというのが普通の生活だったと思います。自由に遊ぶ場所がないというところについては、学校の中で遊んで帰れるような環境づくりも、今から考えて、市町教育委員会と一緒に、知恵を絞りながらやってまいりたいと思います。ありがとうございました。</p>

教 育 長	いろいろと御意見がありました、何か言い残したこととかありませんか。
石 本 委 員	<p>すみません。資料の5ページの説明文ですが、この使い方が私はちょっとわかりません。どのような使い方を想定して作られたのか、ただ単に配布するのか、これを掲示するのか、最後の方に「ポスターを貼っておくから、あとで見てください。」とあります。これをしっかり見ってもらうための授業を、小学校でも1時間の授業にしっかりと入れてもいいのではと思いました。</p> <p>「運動しよう」という声かけも大事ですが、理論的に食事と体の関係とか運動と体の関係とかを勉強するというのも、ひとつ必要ではないかなと思いました。</p>
教 育 長	はい。先ほどの文章の使い方についてですが。
学校安全・体育課長	<p>ポスターを配布して終わりであると、なかなかこちらの趣旨も伝わらないので、今年度はそのポスターに併せて、先生方のための参考の資料と、ひな形としては子ども達への説明資料の案をお示しさせていただきました。</p> <p>実際には、どの場面で使うかとなるとそれぞれの学校に事情があるというところで、あまり強制的に「この場面でやってください」というものが言いにくいところもあります。あくまでも参考例という形に変更させていただきました。こちらの思いとしては、当然全ての学校で、ホームルームの中できちんとポスターを示しながら説明をしていただきたいということもあります。</p> <p>先ほど委員さんのお話の中でもありましたが、いろんな情報を家庭の方にも提供しながら、「こんな効果がありますよ」とか「こういう家庭での取組も御協力お願いします」というところまで、踏み込んで検討することも必要であるかなと思っております。今後とも内容の改善ですとか、周知の方法については工夫をしてまいりたいと思っております。ありがとうございました。</p>
教 育 長	<p>よろしいでしょうか。いろいろと御意見いただきました、大変ありがとうございました。いただいた意見で、本当に今から考えていけないこともありますし、教育委員会だけでなく他の部局とも連携しないといけない部分もあろうかと思えます。また進めてまいりたいと思えますので、どうぞよろしくお願いします。</p> <p>それでは、以上で本日の意見交換を終わります。</p> <p>次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。</p>

教育政策課長	次回、2月の教育委員会会議ですけれども、2月23日木曜日の午後1時からを予定しておりますのでよろしくお願いいたします。
--------	-------------------------------------------------------------